九州海事広報協会会報
No.196
発行所
(公社)九州海事広報協会
北九州市若松区本町1-13-20
洞海港湾労働者福祉センター1階
電話 093-701-7897
FAX 093-701-7898
https://kaijikoho-kyushu.org/

新年を迎えて

公益社団法人 九州海事広報協会
会長 小笠原 朗

令和6年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には平素より格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行し経済活動は「ウィズコロナ」政策により徐々に活発化し、人の動きも広がり始めました。

本年が健康で希望に満ちた1年となりますことを心からお祈り申し上げます。

さて、当協会では海事思想の普及・宣伝活動、国民の祝日「海の日」広報、海事知識の啓発や公益活動など年間を通して展開し、一人でも多くの方に「海」を考え、親しみ、大切にする心を育てていただくように活動しています。

次代を担う青少年が海を身近に感じ興味や関心を持ち、海事産業へ進路の選択肢を広げていただけたらと思っております。

昨年の活動につきましては「第60回中学生海の絵画コンクール」は27校、216点の応募があり、心のこもった素晴らしい絵画作品を門司港、佐世保、鹿児島で展示、多くの方に鑑賞いただきました。

海事産業見学会、船との出会い事業は、学校の生徒・児童、教員を対象に海事関係機関・団体や企業のご支援・ご協力をいただき、九州・山口の各地で実施しました。

また、「日本の海を愛するパネル展」は下関、若松、芦屋、福岡、唐津、大村の各ボートレース場で開催し、海事知識の普及を図るとともに地域の皆さんにボートレース事業が果たす社会貢献への理解を深めていただいています。

今後ともその任務・役割の達成に邁進していく所存でございますので、各会員の皆様並びに関係の皆様方のより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、「海の日」に際し、海事功労者等表彰を受けられた方々、企業、団体に対し心から敬意を表しますとともに、海事産業の益々のご発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭の辞

九州運輸局長
吉永 隆博

新春を迎え、謹んで御挨拶申し上げます。

長く続いたコロナ禍もようやく収束し、国内外の観光需要は急速な回復を見せており、旅客・貨物動向においてもコロナ前に近い状況まで回復してきました。

また、昨年7月には南阿蘇鉄道が全線で運転再開し、8月にはJR九州日田彦山線のBRT「ひこぼしライン」が開業するなど、災害からの復旧、復興が着実に進んだ喜ばしい年でありました。

一方で、被災地域のさらなる復旧・復興の推進、生産年齢人口減少に伴う運輸・観光業界の人手不足や物流2024年問題等々、取り組むべき課題や問題が山積しております。

九州運輸局としては、地域の発展、運輸・観光業界の更なる成長に向けてしっかりと支援してまいります。

さて、年頭に当たり、九州の運輸・観光行政に関する抱負を述べさせていただきます。

（中略）

運輸の安全・安心の観点から、（中略）

海事分野については、一昨年に発生した知床遊覧船事故にかかる「旅客船の総合的な安全・安心対策」の66項目のうち、改良型救命いかだの設置にかかる船舶の安全基準の強化等35項目が既に実施されているところです。

本年には残り31項目について、事業許可更新制度の創設をはじめ事業者の安全管理体制の強化等が順次開始されます。引き続き、監査・検査執行体制の強化等の対策により安全・安心な小型旅客船の実現に向けて、迅速かつ適切に取り組んでまいります。

物流革新と人材確保の観点からは、近年、自動車運転手や船員、自動車整備士、造船等の技術者、また宿泊業従事者など運輸・観光業界を担う人材の不足が深刻化しています。

九州運輸局では、昨年、関係行政機関等と連携し運輸分野を紹介する「業界を知るセミナー」、「めざせ！海技者セミナー」、「自動車整備士との車座対話」、「女性のための宿泊業セミナー」など運輸・観光関係の雇用の維持・確保に向けた取組を行ってきました。本年も、各事業者における雇用の状況等を踏まえながら、運輸・観光における人材確保に取り組んでまいります。

（中略）

また、「物流の効率化」を推進する取組として、長距離輸送の幹線部分をトラックから鉄道や内航海運へシフトする「モーダルシフト」を強力に推進することとしており、鉄道コンテナ、内航フェリー・RORO船等の輸送量・輸送分担率を今後10年程度で倍増させる目標が掲げられております。

九州運輸局としましても、九州の地域特性を踏まえ、モーダルシフトの推進に積極的に取り組むとともに、「物流革新緊急パッケージ」に基づき、トラックGメンによる荷主・元請事業者の監視強化、「標準的な運賃」の拡充・徹底等、GX・DX化等「物流の効率化」の推進等各施策について、関係機関・団体とも連携し、持続可能な物流の実現のため取り組んでまいります。

以上のように、九州運輸局では、「運輸と観光で九州の元気を創ります」をキャッチフレーズに、社会・経済情勢の動向に対応した各種課題の解決に向け、職員一丸となって取り組んでまいる所存です。

結びに、九州の発展と皆様方の御健勝と御多幸をお祈りして、新年の御挨拶といたします。

（全文につきましては、九州海事広報協会ホームページに掲載しています。文責：九州海事広報協会）

日本海事センター補助事業
船との出会い事業
海事産業見学会
ご協力をいただきました皆様、大変ありがとうございました。

「船との出会い事業」の取り組み

▼9月28日（木）津久見市立津久見第2中学校1年生40人、教諭5人
・保戸島中学校1年生1人、教諭2人
・（海洋教室）「出前講習、体験乗船」
・主催：大分運輸支局、九州海事広報協会
・協力：津久見市、津久見港運協会、津久見地区海運組合、大分県立海洋科学高等学校

津久見港内・体験乗船

▼10月13日（金）唐津海上技術学校2年生25人、教諭3人
・（海洋教室）「造船所、舶用品製造所見学会」
・主催：佐賀運輸支局、九州海事広報協会
・協力：（株）名村造船所伊万里事業所、東亜工機（株）本社・谷田工場

造船所を間近に見学

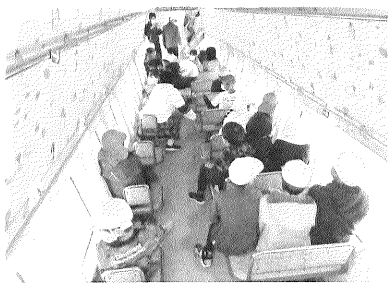
▼11月2日（木）下関市立岡枝小学校5年生29人、教諭2人
・（海洋教室）「コンテナターミナル見学会、フェリー船内見学会、造船所見学会」
・主催：下関海事事務所、九州海事広報協会
・協力：長州出島コンテナターミナル、下関市港湾局、関釜フェリー（株）、三菱重工業（株）下関造船所

造船所資料館見学

▼11月7日（火）津久見市立津久見第1中学校1年生73人、教諭5人
・（海洋教室）「出前講習、体験乗船」
・主催：大分運輸支局、九州海事広報協会
・協力：津久見市、津久見港運協会、津久見地区海運組合、大分県立海洋科学高等学校

出前講習「海の学校で学べること」

▼11月28日（木）日南市立油津小学校5年生42人、教諭2人
・（海洋教室）「体験乗船会、クルーズ客船船内見学、巡視船見学」
・主催：宮崎運輸支局、九州海事広報協会
・協力：宮崎海上保安部、商船三井クルーズ（株）、マリンビューワーなんごう



水中観光船「魚が可愛い」

海事広報イベント

「大分みなとまつり」

8月27日（日）に大分港で「大分みなとまつり」が4年振りに開催され多くの方が来場しました。大分運輸支局が海事産業の役割や海や港の仕事などのPRを行うブースを出展しました。当日は海事関係団体の日本内航海運組合総連合会、日本水先人会連合会、海技振興センター、日本海事広報協会からご提供のパンフレット（水先人、ぼくと私のシップガイド）、グッズ（マルクン絵本、シャープペンシル、海のパイロットノート）等を来場者に配布して海や港の仕事、海事産業の役割・重要性、海の交通安全などを学んでいただきました。

賑わう大分運輸支局展示ブース

「北九州ゆめみらいワーク2023」

12月7日（木）～8日（金）に西日本総合展示場で北九州市制60周年記念「北九州ゆめみらいワーク2023」が開催され9000名を超える中・高校生、先生などが来場しました。当協会では「海事ブース」（海にひろがる夢・みらい）を九州運輸局、福岡運輸支局の協力のもと（一社）日本船主協会、鶴丸海運（株）と合同出展しました。海運に関するクイズや広報DVD、海事パネルを活用して、次世代を担う生徒に海の職業に関する知識の幅を持っていただき、海洋立国「日本」に取り重要な海事産業や海運の役割を伝えることで、将来の進路選択で海・港に関する職業で「働きたい」と考えていただくよう積極的にPR活動を行い、約700名の生徒が立ち寄り楽しく学びました。

鶴丸海運（株）マスコットキャラクター「ツルオくん」大活躍